

ダンボール箱を使った生ごみの堆肥化

取り組んでいる方に聞いてみました。

わたしたちの毎日の生活から必ず生ごみは出てきます。現在、これらの生ごみの処理は、焼却処理が中心となっていますが、生ごみを堆肥にして、ごみの量を減らし、リサイクルさせるという方法がいくつかあります。

もちろん、人それぞれの生活様式によってできる範囲や方法も異なりますが、今回は、あまり経費をかけずに行える方法の一つである「ダンボール箱を使った生ごみの堆肥化」に取り組んでいる、区内の方の事例を紹介します。



▲写真は生ごみから作った堆肥で育てられたハーブの葉です

おおもり
大森 一男さん
（曙在住）

曙にお住まいの大森さんは、平成15年に区内で行われたダンボール箱による生ごみ堆肥化の講習を受けてから、生ごみを堆肥にしてさまざまな花や野菜の栽培に利用しています。



ご自宅の庭では堆肥を使って主に草花などを栽培し、さらに貸農園でも野菜の栽培をしています。その種類は、トマト、キュウリ、ナス、ジャガイモなどさまざま。さらに、寒冷地では育てることが難しい落花生も、苗を覆って保温するなど、手をかけて上手に栽培しています。

大森さんは「肥料には、以前は化学肥料のみを使用していました。現在も、少しは化学肥料を使用しますが、中心は生ごみから作った堆肥です。

確かに、化学肥料より手間がかかりますね。でも、生ごみ堆肥化は、上手に行えばあまり経費をかけずに良質な堆肥を作れます。

また、草花を育てるには、庭の大きさや温度管理などの問題もあると思いますが、家の中でプランターなどを利用する方法もあります。私も、のんびり、楽しんでやっています」と話しています。



既に、今年使用する分の堆肥は作り終えて、今は来年度の堆肥を作っているそうです。とても手際よく作業をされていますが、昔は栃木県で農家をされていたそうで、その後札幌にお引越しされたそうです。



「作った野菜は、自宅でおいしく食べています。食べる時にも、生ごみから作った堆肥を使用した野菜であるという安心感がありますね。

草花をよく育てるには、まづ土を肥やすことです。そのため、やはり肥料が大切です。この点から考えて、生ごみから作った堆肥は、草花の生育も良く、とても優れていると思います」と大森さん。畑、そして土のプロであった方も、生ごみから作った堆肥の品質のよさを認めています。

